子ども平和新聞

2025，7，29

大原中学校
青山 由依
仲町小学校
荒木 結奈
別府小学校
濱邊 涼
鈴谷小学校
青山 奈央

戦後80年 原爆の歴史

当時9歳で原爆を体験した木内さんは原爆の恐しさをかたりました。

木内さんによると原爆が落ちたあとはたくさんのやけどをした人たちがいっぱい歩いていたそうです。原爆が落とされてから今年で80年になります。原爆によってたくさん亡くなりました。木内さんはこの経験をして歴史を伝え、学ばせ自分たちの手で本当の平和と希望の未来をつかみ取ってほしいと思われています。そしてかくへいきという恐しいへいきのないせかいが願いらしいです。

広島がもうほとんどなにもなくなっていましたが最近木内さんが広島に行くとキレイなまちになっていたそうです。しかも木内さんが当時住。ていた風呂屋もまだあるそうです。

（渡邊涼）

被爆体験を語る木内さん↑

天皇の権威 奉安殿

戦時中、御真影（天皇・皇后の写真）を奉安殿や多くの家の中にかざっていた。また、学校に通う生徒、先生は毎日奉安殿の前を通る時は礼を欠かさなかった。奉安殿で儀式をする際には「敬礼は三十度」「最敬礼は四十五度」と作法が決まっており、小さな子どもまでにも礼が義務づけられていた。平和クラブ連絡会の三浦さんは「天皇皇后の結婚が報道された日には二人の写真が新聞とともに配られ、多くの家にかざられた。」と話した。このことから当時は、天皇の権威がとても大きかったことがわかる。

（青山ゆ）

奉安殿について話る三浦さん

戦後死去した1人の話

平和クラブ連絡会の入江さん語る。

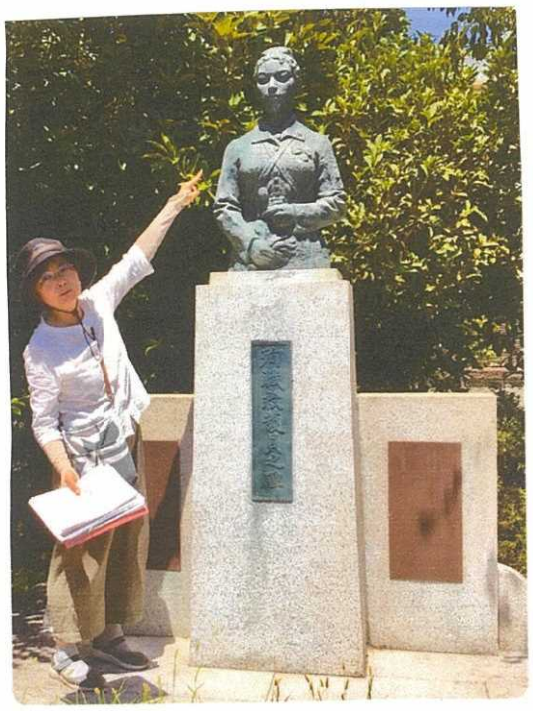
木村美喜さんが2022年死去、94歳でした。美喜さんは大正15年生まれであり、16歳で召集、昭和19年フィリピンで陸軍病院等で勤務していた。19歳で終戦し、自身のYouTubeで語った。

「一歩歩けば一歩日本に近づく。一歩歩けば一歩お母さんに近づく」と言っていたそうです。

殉職救護員之碑は

「その徳を源に又もって永く吾等の師表として敬仰するの資となす。」と書いてあり、美喜さんはその代表と言えるからです。

荒木 結奈



殉職救護員之碑について語る入江さん

心に残ったのが、木内さんの友達が全員亡くなってしまったことです。木内さんは友達がいなくなり、とても悲しかったと思います。なぜなら、楽しくみんなで遊んでいたのに、げんばくが落ちて、木内さん以外全員亡くなったからです。

殉職救護員之碑は1つ目は戦争の中でもぼっちだったからです。2つ目は戦争の中でもお兄ちゃんと再会できたことです。なぜなら、苦しい戦争の中でも、お兄ちゃんと会えるかくりつは、とても低いと思うからです。

奉安殿は、80年前、小学校に必ずあったそうです。今、自分がかよっている学校には、奉安殿がないので、ふだんは知れないことなど、教えてもらい、きょうみをもつことができました。奉安殿の中には、天皇陛下の写真とみんなの守るべき約束事が書かれたまき物が入っているそうです。

これらから、戦争はあってはならないことだとわかりました。罪がない人へ被害を与え、何かを奪うことになるからです。（青山な）